

○気候変動適応法について

地球温暖化に伴う気候変動への対策として、私達は、図1のとおり、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和」だけでなく、気候変動による影響・被害を回避・軽減する「適応」を同時に行っていく必要があります。そこで、国は、2018年12月、気候変動適応法を施行し、「適応」を推進するための枠組みを整備しました。「適応」の代表例としては、「熱中症対策」のほか、「気象災害対策」や「農作物高温障害対策」などが挙げられます。



図1 気候変動対策における「緩和」と「適応」の関係

出典) 平成30年版環境・循環型社会・生物多様性白書（平成30年6月、環境省）

○暑さ指数について

暑さ指数は、WBGT（Wet-Bulb Globe Temperature、湿球黒球温度）とも呼ばれ、熱中症予防を目的として1954年にアメリカで提案されました。

人体と外気との熱のやり取り（熱収支）に着目し、人体への影響の大きい以下ア～ウの3つの要素を取り入れた指標です。単位は摂氏度（℃）で示されますが、図2のとおり気温とは異なる値となります。

ア 気温

イ 湿度

ウ 日射・

輻射（ふくしゃ）*

*高温の物体から受ける熱のこと



$$\text{暑さ指数} = \text{乾球温度} \times 0.1 + \text{湿球温度} \times 0.7 + \text{黒球温度} \times 0.2$$

（気温）

（湿度など）

（輻射熱など）

図2 暑さ指数の算出式（屋外の場合）